

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471500304
法人名	社会福祉法人 誠幸会
事業所名	グループホーム泉の郷 仙石原
訪問調査日	平成23年9月2日
評価確定日	平成23年10月31日
評価機関名	株式会社R-CORPORATION

**○項目番号について**  
外部評価は20項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
[次ステップに向けて期待したい内容]  
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471500304	事業の開始年月日	平成15年11月 1日
		指定年月日	平成22年11月 1日
法人名	社会福祉法人 誠幸会		
事業所名	グループホーム泉の郷 仙石原		
所在地	( 250-0631 ) 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 1 2 8 5 - 3 6 8		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成23年8月16日	評価結果 市町村受理日	平成24年4月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷き折りなす箱根の大自然の中に位置し、毎日の温泉浴に、リゾート感覚でゆったりとした最高の時間を過ごしていただくと共に、ご利用者様が主体的に暮らせるような、「生活づくり」を意識しながら、グループリビングケアに日々取り組んでいます。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成23年9月2日	評価機関 評価決定日	平成23年10月31日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴  
 ①経営母体は、社会福祉法人「誠幸会」で、社員が登録を含めると400名余、各種福祉施設(特養、ケアハウス、デイサービス等28事業)のネットワークを持つ大きなグループである。グループ内のPCネットワーク、研修体制などについて共通に取り組める強みを持っている。PCネットワークでは、共通のソフトを活用し、情報の一体化が図られ、個人記録についてもパソコンに取り込まれており、毎月末そのサマリーを出力して、ご家族に送付しており、ご家族は状況が確認出来るので好評である。今年度の理事長方針は「仲間」であり、4月の全体会議にはパートも含めた全社員が夜勤を残して参加し共有化を図っている。全体会議は年3回行われ、直接理事長による周知、徹底がなされている。  
 ②地域密着については、地元の人が少ない中で、保養施設の管理者等との関係も良好であり、小塚組の組長(自治会の班に相当)を中心に、この地域に合った地域密着の形が作られている。小塚組の全体会、男性部会、婦人部会にはそれぞれ参加し、水源地の清掃など、清掃活動への参加や部会の懇親会への参加など、密度の濃いお付合がある。反面、運営推進会議もこの小塚組が中心メンバーであるため、開催は年1回に止っている。箱根町役場、地域包括支援センターも協力してくれている。防災についても小塚組で集合場所も決まっており、備蓄も地域全体で3日間分が確保されている。  
 ③ケア方針「目配り、気配り、配慮」をモットーに職員間、対利用者にこれを生かしている。介護計画は、モニタリング、アセスメントを経て次の計画を立てる「誠幸会」独自で、共通の方式で実施は定着している。今年度はグループホームの原点(一緒に生活)に戻った介護をテーマに、介護計画を作成すべく、全利用者の生活歴はそれぞれ違うとの視点をもう一度再確認し、再度生活歴をお伺いする等、活用した形で取り組みを開始している。居室担当とケアマネが検討チームとして介護計画の原案を作り、カンファレンスで検討し、医師の意見も聞き、先ず試行、確認の上作成している。この活動は職員のレベル合わせ、スキルアップに役立っている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム泉の郷 仙石原
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の運営理念を事業所内にかかげ常に目に付くようにしている。職員一人ひとりが意識を持って実践するように心がけている。	法人の運営理念を事業所内に掲げ、常に目に付くようにし、職員一人ひとりが意識を持って実践するようにしている。この法人では事業計画の基となる理事長の訓示があり、今年度の理事長方針は「仲間」である。4月の全体会議にはパートも含めた全社員が夜勤を残して参加し共有化を図っている。全体会議は年3回行われ、直接理事長による周知、徹底がなされている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小塚地区の常会、総会行事や清掃等定期的に参加している。入居者は小塚地区自治会のバーベキューに参加して共に食事を楽しまれ、交流をはかっています。	小塚地区の常会、総会行事や清掃等に定期的に参加し、入居者共々小塚地区自治会のバーベキューに参加して共に食事を楽しむ等、交流を図っている。ホームの納涼祭には、ご家族等をお招きしボランティアの出し物を挟みながら楽しんで頂いている。小塚組の会議は常会、総会の他、男性のみ、女性のみ懇親会もあり参加している。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小塚地区の常会、総会行事に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の組合長を含めご家族代表、町役場の福祉の担当者と現在の運営の報告、今後の運営等に関して、意見をいただき、向上に努めている。	運営推進会議は地域の組合長を含め、ご家族代表（2名）、利用者、箱根町役場の福祉の担当、地域包括支援センター、本部看護師で医療連携の担当、それにホーム関係者で行い、現在の運営の報告、今後の運営等に関して意見を頂き、向上に努めている。実施は小塚地区自治会のバーベキュー大会に合わせて実施している。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	状況や意見を頂き、入居者の斡旋等を役場に出向き又、電話等でも、協力関係を築いている。	箱根町担当者とは、町役場に出向き、状況を伝え、意見を頂く等話し合う機会を持ち、良好な関係を保っている。また、電話等でも連絡を取り合っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	御殿場とも相談して身体拘束のないケアに取り組んでいます。施錠はしておりません。	身体拘束について、職員は弊害を正しく理解しており、エレベーターの扱い等について拘束に当たるかどうかなど具体的に相談も行なっている。玄関の施錠はせず、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議内部研修等での話し合いや勉強会で普段のケアの中からも、注意し合いながら虐待行為を防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やその冊誌手引き等で学び個々の必要性を関係者と話し合いながら、活用、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書に明記の上契約時に説明がなされ、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、第三者委員会も設置し随時受け付けている。連絡方法は、施設内に提示している。又利用者から意見要望は特に有りませんが家族からの要望等は素早く対応している。	泉の郷グループでは情報の一元化が図られていて、毎日の業務内容は即時に本部で把握出来る体制となっている。苦情相談はホーム自体の他、本部でも対応可能な窓口を設け、更に第三者委員会も設置、随時受け付け、連絡方法は、施設内に提示している。利用者から意見要望は無いが、家族からの要望等には素早く対応するようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや定期的な職員会議等で意見交換しながら反映している	ミーティングや定期的な職員会議等で職員間で意見交換を行い、運営に反映するよう努めている。職員の平均年齢も高いため、云い易い体制が構築され、ミーティングでの発言も活発で情報の伝達等についてもスムーズな状況にある。管理者と職員は日常コミュニケーションを取れる体制にあり、評価も全社に行なっている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思います。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修のなかでの指導及び、トレーニングが行われている。法人外の研修も極力参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ネットワーク作りや相互訪問等の活動はしていませんが、電話や話し合う機会がある時は情報交換をし又法人内であるが他の施設との情報交換も行い、常にサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者一人ひとりの状況を把握しながら、ゆっくりとお話しをしながら関わる時間を多くし安心した生活を送って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等で話したりご要望等も伺いながら家族等が困っていること、不安を解消し、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活状況を伺いながら混乱のないように見守る姿勢や後方支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務に追われることなく、ゆっくりお話しをしたり、調理方法を教えていただいたり、できる家事等は一緒にやり暮らしを共にしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会の時の相談や、毎月の生活記録を送付し、随時生活の様子がわかるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方でなかなか面会に来ていただけない方には、来ていただけるように、連絡、声かけをしております。	立地が遠方で、面会に来てもらいにくい事情も理解し、ご家族等に連絡やお声がけをするように努めている。地域でのお付き合いは大切にし、ご利用者に思い出を作ってもらうように配慮している。小塚組とは親しくお付き合いし、ホームへの訪問もあり、また、小塚組のバーベキューには全員で参加し楽しんでいる。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに定席を設け入居者間で自発的に行ってくださいっております。又職員も加わり支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話で連絡を取ったり、他の施設に移動されても、定期的に様子を伺いしたり、お話を通じて関係を保っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	なるべく一人ひとりの生活歴を知り、その人にあった関わりが出来るように努め本人の不安を払拭している。	一人ひとりの生活歴を知ることに努め、各々異なる生活歴から浮かんでくる希望を把握し、その人にあった関わりが出来るように努めている。個別ケアを心がけている。好きなレクリエーションとして、ビンゴがあり週1回か2週1回実施している。集会所で回想法を簡単なゲーム化し一緒に楽しみ盛り上がっている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からも今までの暮らし方を聞きアセスメントしながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の出来る事ややりたい事を取り入れてケアプランを作成している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス等で話し合いながらケアプランに取り入れ、全員が読んで把握するようにしている。話し合いの無い一部の家族とは電話、手紙等で意見を聞いている。	居室担当とケアマネが中心となり、ケアカンファレンス等で課題を話し合いながらケアプランに取り入れ、職員全員が読んで把握するように努めている。話し合いの出来ないご家族については、電話や手紙等で意見を伺っている。ケアプランは検討チームで原案作成→ケアカンファレンスで確認→主治医の意見取り入れ→試行→確定・周知・実施のステップを踏んでいる。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	再アセスメントやケアカンファレンス等で話し合いながら状態に合わせた対応見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化や問題が起きた時は、再アセスメントやカンファレンスで話し合い見直している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できる限り安全で豊かな暮らしができるように持っている生活技術を活用しながら、個人の持つ可能性を引き出す生活づくりを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の医院にかかりつけ医となっただいております。2週間に1回～1ヶ月に1回の往診を各入居者は受けています	かかりつけ医は、近隣の内科医にお願いしている。医師には2週間に1回～1ヶ月に1回の往診をして頂き、各入居者は受診している。歯科は契約はしていないが宮城野の歯科に通うようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本部より週に1度看護師が巡回しており、その都度相談、指導、処置、していただいております。看護師がいないときでも、協力医療機関や電話等で相談させていただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、定期的に病院に行き医師や看護師と情報交換しております。入院できる病院とは連携はしておりませんが、かかりつけ医より紹介していただいております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度、かかりつけ医と話し合い、ご家族とも話し合い連絡を取り合っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、その都度、かかりつけ医と話し合い、ご家族とも話し合いを持っている。医療連携については本部の看護師が定期的に来て健康管理を行なっている。医療の体制が無いため特養等への転出も視野に入れて対応している。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の消防署の応急手当等の訓練にも参加し、又定期的な医務研修において訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に非常口、通常口を使って避難訓練を行っている。地区の組員と災害時の協力を依頼している。	災害対策について、定期的に年2回、非常口を利用して避難訓練を行っている。また、地区の組員と災害時の協力を依頼し、町内会の小塚組からは備蓄等の具体的協力の約束を頂いている。箱根は火山性地震があり、地震の街頭放送がある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格に合せたきめ細かい言葉かけをしている。その人の生活歴を少しでも多く把握して一人ひとりの取りまく状況、行動を理解しながら個別ケアに努める。	一人ひとりの性格に合わせて、きめ細やかに対応に配慮し、本人のプライバシーを損ねないような言葉かけに努めている。利用者の生活歴を少しでも多く把握して、一人ひとりの取りまく状況、行動を理解しながら個別ケアに努めている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりその人に合ったペースで生活してもらい、好きな事、好きな事の情報収集し、話題に活用している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や様子を伺いすべて希望にすることはできませんが、好きな事を好きなように危険が無いかぎりその人のペースでゆっくり過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて一人ひとりの希望に合った服装をいただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた食材、料理を取り入れ、準備、食事の片付け等職員と一緒にしている。入居者の参加できる料理は一緒に作る。	食事は利用者の要望に沿って利用者と一緒にするのが法人の方針であり、一緒にメニューを決めて独自で食事を作っている。また、入居者の参加できる料理は一緒に作っている。本部の栄養士に栄養バランスを見てもらい、季節に合わせた食材を取り入れた食事を提供している。準備、食事の片付けは、職員と一緒にしており、生協の配達も利用しながら支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に朝、昼、夕と摂取量、水分量の記録をしている。栄養士や看護師からも意見も聞きメニューを作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っていますが、本人の力に応じて、全介助、一部介助、見守り、声かけ等で行われております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パットを使用している方も時間を見ながらトイレで排泄ができるように努めている。排泄リズム表もつけ一人ひとりの排泄パターンを把握できるようにしている。	排泄について、パットを使用している方も時間を見計らいトイレで排泄ができるように支援している。また、排泄リズム表をつけ、一人ひとりの排泄パターンを把握できるようにしている。ケアのプロはオムツを外すのも仕事と心得、出来る限り布パンツに代えるよう努めている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立を工夫したり、散歩やラジオ体操を毎朝行っている。週1回のナースの訪問があり、相談、指示、指導等を頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間はご希望に応じられない時もあるが、入浴を希望される入居者は曜日、時間に関係なく入浴していただいている。	このホームの売りの一つに「温泉」がある。原則1日おきだが、希望があれば毎日の入浴にも応じている。時間はご希望に応じられない時もあるが、入浴を希望される入居者は曜日、時間に関係なく入浴して頂いている。重度化に対応し、リフトも設備している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムをつくり安眠できるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方ファイルを作成しわかりやすくしており、一人ひとり把握するよう努めている。又誤訳の無いよう2名の職員が確認し、服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事、遠足、花見祭りの参加等取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気のいい日は必ず施設付近を散歩、探索して四季を楽しんでいる。遠足、野外バーベキュー等は入居者の希望を聞き極力ご家族も参加していただいている。	お天気のいい日は必ず施設付近を散歩、探索して四季を楽しんでいる。(10時、15時おやつの後)遠足、野外バーベキュー等は入居者の希望を聞き極力ご家族も参加して頂いている。退去の方のアルバムを纏めてあげた際に、良く外出しているのが分かった。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて管理されている。買い物に同行できる入居者は一緒に行き、希望に応じた買い物をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から、手紙や荷物が届いた時又は、本人から電話したい時には自由に連絡をしていただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールは広くまき暖炉を囲みくつろぐ事もでき四季折々の花を生けて飾ったり季節に合った作品を飾りいつでも季節感を味わってもらっている。	玄関ホールは広く、窓には四季折々の風景が広がり、薪暖炉を囲み、利用者の談話や寛ぐ空間になっており、共用部分には、四季折々の花が飾られたり、季節毎の作品や写真が掲示され、ご利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。季節感を味わう場所がふんだんにある。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも、ソファを置きゆったりとした空間の中話しをしたりその方の気分に合わせて一人で自由に過ごせる場所を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や用品を持ち込んでいただいているが部屋の広さもあり、生活に必要な物を主に置かれている。	居室は、本人の使い慣れた家具や用品が持ち込まれ、部屋も広く、自由に生活に必要な物が置かれ、居心地よく過せるようになっていく。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人のありのままを受け入れ入居者自身が有する能力を発揮して一人ひとりが主体的に暮らせるようにしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム泉の郷 仙石原

作成日

平成23年 8月20日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	プライバシーの確保はできているが、人格を尊重した言葉かけや対応がまだ雑である	ご利用者一人ひとりが大事な存在であると認識し、性格に合わせたきめ細かい言葉かけをする	1人ひとりのバックグラウンドを把握した上で「介護する側」「介護される側」といった関係性にあるのではなく共に生きる人同士としてのふれあいを大切にして行く	
2	23	個別ケアの対策	利用者の背景や思いをもっと深く知る	職員の目線や間違った固定観念でケアをしない	
3	28	認知症であっても1人1人の違いがあるただの物忘れではない事を理解する	心理状態によって表出する行動障害の違いは大きく、その日、その時の変化に気がつき対応も変えていく	認知症の人の心は常に敏感であり微妙な変化でも混乱してしまうので気づく目、そして対応を変えていくケアが出来るようにする	

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。